

# 建築概論

## (第13回)

建築専門家の倫理

1

今回は、建築専門家の倫理について学びます。

## 技術者の良心

- ① 技術に忠実に判断する
- ② 科学技術の限界を知る
- ③ 結果について想像する
- ④ 技術者である以前に市民である
- ⑤ 原則に立ち返る

2

まず、これは、『建築倫理用教材』（日本建築学会編，丸善）にあるのですが、「技術者の良心」ですね。

これは、ぜひ憶えてください。将来、倫理の問題にぶつかったときに、原則となるものです。

複雑な問題に直面した時に大事なのが、⑤の原則に立ち返るということですね。

また、建築において特に大事なものは、③の「結果について想像する」です。前回のトラブル事例でも見たように、欠陥住宅の多くは、結果についての想像が足りなかったために起きています。

## 建築専門家の倫理

- 本当に何が起こるか、洞察できる能力が一番大切である。
- 神ならぬ人間は、どんなに努力してもミスをおかすかもしれない。そのために賠償責任保険制度がある。
- 保険に入っていればそれだけでよいわけではない。保険制度は不完全である。ミスをしないことが一番であり、念には念を入れてミスを防ぐ。
- 口約束と曖昧な契約は、トラブルの源である(口約束は面倒でなく、当面は楽である。楽であるために問題が起こりやすい)。

3

この辺の内容は、君たちには、まだ早いようにも思いますが、この授業の目的は、君たちがどのような技術者を目指すのかという目標設定にもなるので、特に赤字のところは憶えてくださいね。

ここに書いてあるのは、ひとえに「誠実さ」に属するものですね。そして、その誠実さはどこから生まれるかと言えば、愛情ですね。仏教で言えば利他の精神です。

そして、もう一つ大事なことは、人間、誰しも失敗をするということです。人間にミスはつきものなのです。大事なことは、ミスをした時、どのように対処するかですね。その時に人間性が問われるわけです。バレなければいいと隠してしまうのか、正直に話してきちんと対処するのか、そこが倫理において一番大事な点です。

欧米社会では、人間はミスをするという前提にたっていますから、契約というものを非常に重視します。しかし、日本社会では、結構、その辺が曖昧です。それは、ある意味人間の性善説に立っていますね。私は、それは日本の良いところでもあり、悪いところでもあると思っています。

ですから、君たちは、日本人の誠実さと、欧米社会の契約の厳密さの両方を兼ね備えてほしいですね。

- 新しい形や新材料、新工法にこだわった前衛的な設計が、雨漏りや欠陥工事の原因になる。新しいことをやって功をあせってはいけない。しかし、同時に必要に応じて、建築専門家は、新しい課題、新しい工法、新しい材料など、創造的な仕事に自信を持って取り組まねばならない(そのためには、日頃から経験をつみ、たゆまざる勉強と研究が必要)。自信は努力によってのみ獲得できる。
- 安価で優れた材料が次々と登場してくる。新しい技術を使えば、難しい課題が簡単に解決できる場合がある。常に勉強と情報収集が必要である。新しい材料や新しい工法で失敗する場合もある。失敗を避けるだけの洞察力を磨く。他分野の専門家の意見を謙虚に受け止める。

4

特に、赤字で示されているところは、しっかり憶えてください。

「自信は努力によってのみ獲得できる」というのは、君たちにもあてはまりますね。君たちの仕事は、しっかりとした知識を身につけることです。しかし、それは努力なしには身に付きません。また、勉強は、学生時代だけのものではありません。社会に出ても日々勉強が必要になるわけです。学生時代に、そういう勉強の習慣を身につけることは、大変大事なことです。

それから、人の意見を受け止める謙虚さですね。この辺も、努力をしていない人ほど、そういう謙虚さに欠けるわけです。この世は、娑婆ですから、その娑婆を生き抜くためには努力しかないわけです。

仏教で言う浄土は、娑婆を生き抜く力を与えるものなのです。娑婆から逃げて楽な世界に行くことではないのです。強いて言えば、努力することが苦でなくなるということですかね。努力というのは、自分のできることを精一杯やることなので、別に競争に勝つと言っているわけではありません。誠実さを身につけるという意味ですね。

- 不祥事の隠蔽は組織の腐敗を呼ぶ（当面は秘密にしておいた方が無難に思える。公表の時期と好評にもっていくまでの手続きが難しい）。
- 建築主のため、最善の努力をすることが求められるが、社会の一般の公衆、あるいは人類のために奉仕するのが基本原則。
- これからの世界では技術そのものが流動的に国際移動する。そうした時代に、日本人だけが特別な倫理観で行動することは許されない。倫理基準や行動規範にも国際的同等性が求められる（自分の価値観を変えることはやさしくない）。
- もろもろの人に現代建築についての意見を聞くべきである。建築の正常化・健全化・常識化を図るには、ぜひとも一度、そういうプロセスが必要だと思う。なぜなら建築は面白半分の遊びでもなく、単なる商売でもなく、道行く人のだれにも見てもらわなければならない真面目な「仕事」だからである。（桐敷真次郎）

5

不祥事の隠蔽については、『空飛ぶタイヤ』で十分学んだと思います。

また、施主の思い通りということではなく、周辺環境や地球環境に害を及ぼすようなことは避けることが原則ですね。それに、国際的同等性というのも頭に入れておく必要があります。

さらには、人間の価値観というのは多様ですから、建築家の独りよがりなデザインを押し付けるのも、よく考える必要があります。何回も言うように、単なる奇抜性は、すぐに飽きられるということを忘れてはならないと思います。

## 組織と個人の倫理

- 組織が腐っているとき、自分がところを得ていないとき、あるいは成果が認められないときには、辞めることが正しい選択である。出世はたいした問題ではない。(P.F.ドラッカー)
- (健全な組織においては)、無能なトップは短期間で地位を追われるし、悪辣な腐敗や汚職は早期に摘発される。(堺屋太一)
- 組織が共同体化し、そのメンバーの利益を追求するだけになると、「年功人事」、「情報の内部秘匿」、「総花主義」、そして最後に、「滅びの美学」があらわれる。(堺屋太一)

ここに書いてあることは、君たちが就職先を選ぶ時に、大変大事になることです。

その企業が、健全な組織であるかどうかは、外側の情報からだけではわかりません。一番は、実際にそこで働いている卒業生の話を聞くことです。

また、大企業になればなるほど、社員は、歯車的になるところがあるので、自分がどういところに合っているのか、その辺を見極めることも大事なことです。

## 学生時代に身につけるべきもの

- 教育には学ぶ側の熱意が不可欠である (熱心な質問は、先生に「教える気」を起こさせる)。
- 建築の技術や学識はコンピュータ技術のように若い人に向けたものだけでなく、高齢者の知識や経験の方が役に立つものが多い。高齢者の判断を軽視してはならない。高齢者の先輩を敬うべきである。
- 何をするにしても、謙虚さを忘れ、関心を持たない人には、何も通じない。教育でも文学でも、芸術でもそうである(まずは何事にも敬意を持ってあたれ)
- 教育の主要な役割は、学習意欲と学習能力を身につけさせることにある。学んだ人間ではなく、学びつづける人間を育てることにあるのだ。(エリック・ホッファー)

7

そして、ここからは、以上のような専門家の倫理を身につけるために、学生時代にやっておくべきことが示されています。

教育には学ぶ側の熱意が不可欠であるというのも、そのとおりで、学ぶ側の熱意がないと良い授業はできません。

高齢者の先輩を敬うべきであるというのも、そうなのですよ。私は、今年還暦を迎えますが、この歳になってわかることが結構あるのです。特に、倫理に関する問題では、経験がものをいうということが多々あります。

そして、謙虚さ、関心・好奇心、何事にも敬意を持つことが大事ですね。自分は何でも知っている、わかっているというのが、最も困った人です。努力する人ほど謙虚なのです。

大学というところは、知識を詰め込むだけでなく、自ら学ぶ能力を身につけるところなのです。大学で学べることは、建築全般の知識からすれば、ほんの一部です。しかし、そのほんの一部を学ぶことによって、もっと多くのことを知りたいという学習意欲が育つのです。そういう意欲を育てるのが大学教育の目的なのです。

- **成功の鍵は責任である**。自らに責任をもたせることである。あらゆることがそこから始まる。大事なものは地位ではなく責任である。責任ある存在になるということは、真剣に仕事に取り組むことであり、仕事にふさわしく成長する必要を認識するということである。
- 人は誇れるものを成し遂げて、誇りを持つことができる。さもなければ、偽りの誇りであって、心を腐らせる。**人は何かを達成したとき達成感を持つ**。仕事が重要なとき、自らを重要と感じる。(P.F.ドラッカー)
- **知識あるものは、理解されるように努力する責任がある**。素人は専門家を理解するために努力するべきであるとしたり、専門家は専門家と通じれば十分であるとするのは、野卑な傲慢である。(P.F.ドラッカー)

8

それから、責任をとれる人間になれるかどうかですね。自分の仕事に責任を持つということは、精一杯の努力をするということです。

大学の勉強も、精一杯努力して単位が取れないのは仕方ありません。しかし、留年したり、退学したりする学生を見ると、そういう努力をしないで逃げている学生が多いのです。ただ、中には、うつ病などの精神的病に陥ることもあるので、そういうのは例外です。

努力というのは、無理をするということではありません。自分に与えられた能力の中で精一杯やるということです。うつ病になる人の多くは、理想の自分と現実の自分がかげ離れているのです。努力というのは、自分の能力の範囲でやればいいので、その結果がどうであれ、努力したことは無駄にはなりません。

設計なども、才能のある人は、努力することが楽しいと思います。しかし、才能はなくても、地道に続けることで、いつか才能が開花することがあるのです。私たちの身体の遺伝子は、常に変化しているのです。嫌いでも続けていれば、好きになることだってあるのです。



## 第13回レポート課題

1. 専門家の倫理についてわかったことを書け
2. 学生時代に身につけるべきものについて書け
3. 副読本の「第12章」を読んだ感想について書け

9

今回は、このレポート課題にしたがって、レポートを作成してください。

以上で、第13回目の授業を終了します。